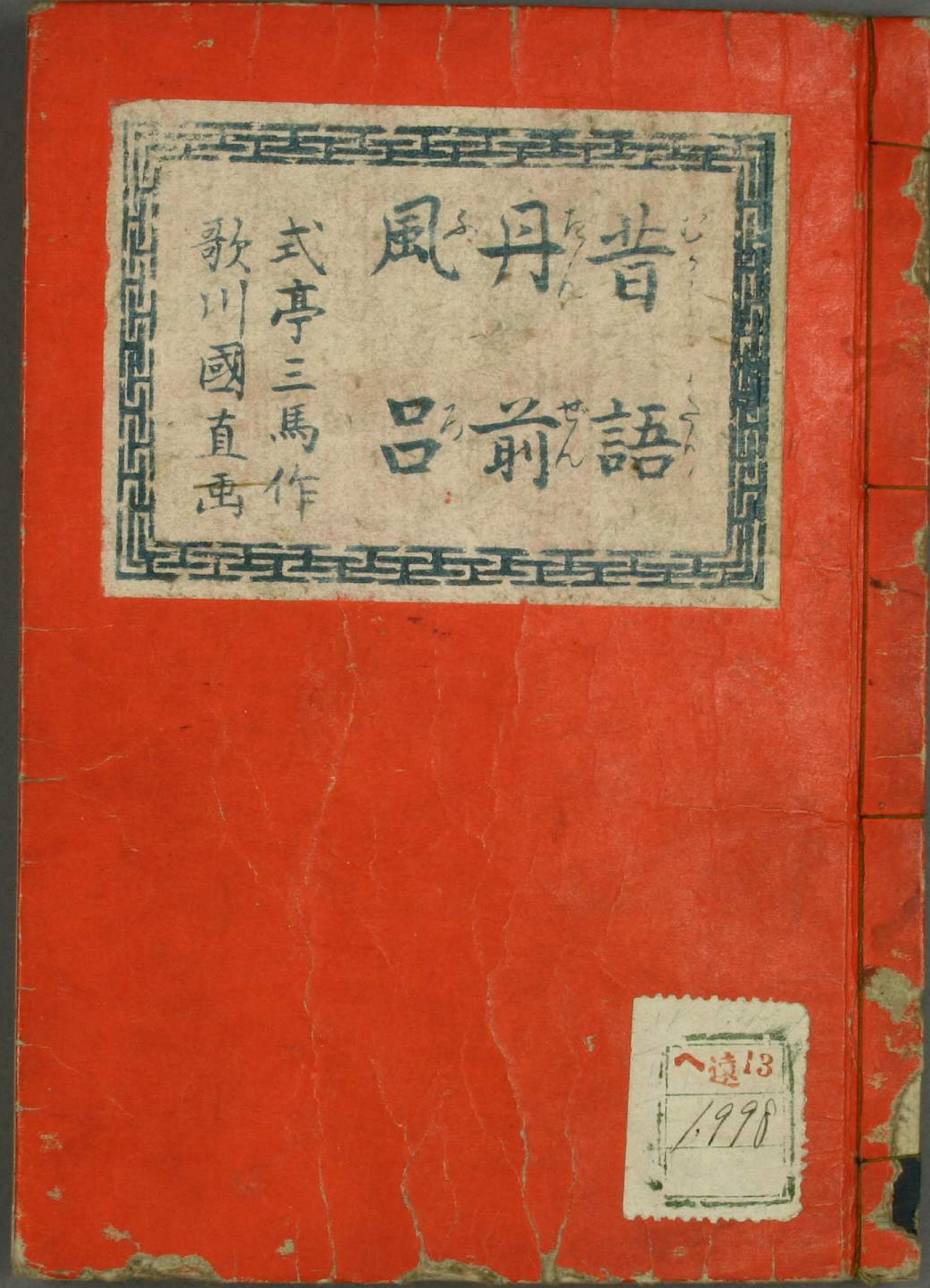


KODAK Gray Scale

© M U

LICENSED PRODUCT



昔丹風  
 語前呂  
 式亭三馬作  
 歌川國直画

13 遠  
 1998



箱 1998

此六十余州の全圖の一少の經國の大業に志ある人をして地の理  
 を知しめ或ハ遊歴の客廻國順拜の人々勝榮古法を探り  
 神仕佛圖もぞ尋ねるふ必用の書なり勿論その國の城下

# 大日本國郡全圖

彩色摺 全二冊 箱入

郡縣村落山河ふいろ中を畫く彩色どりて一覽するも易  
 かしむ定ふ東嶺翁が積年の工夫を以て如斯大成は  
 古今地圖の書の冠たりありの求免の所なり

青物屋繪草紙問屋江戸田所町(雙瀬堂)鶴屋金助梓

明合道人の傳 夫婦和合神の像

夫婦和合神の像  
 此圖は九族の本を九人倫を以て志しと重し今  
 此圖は所の神像は夫婦和合と司るの神なり此を吉兆  
 神といふ人の妻は子の常をこれと深固の安置し毎月  
 朔日と甲子の日不祈と後正直貞順と村々を巡るも此  
 神の所の神といふは夫婦和合子孫長久にして妻  
 夫の善くはと云ふ此像と記してこれと信仰を以て卷  
 首に挿して國難離れぬと仰ぐなりと共にと云ふなり

舟前風呂の風呂屋女後小山本の勝山と  
 味をて勝山の傳の世傳りは全巻の始末東小六  
 小六天神の東來をいふを奥州街道のいふ人  
 震が美小所ありて後田乃郷小流を櫻川を  
 川幅廣きしと野の昔話と作没る櫻史之

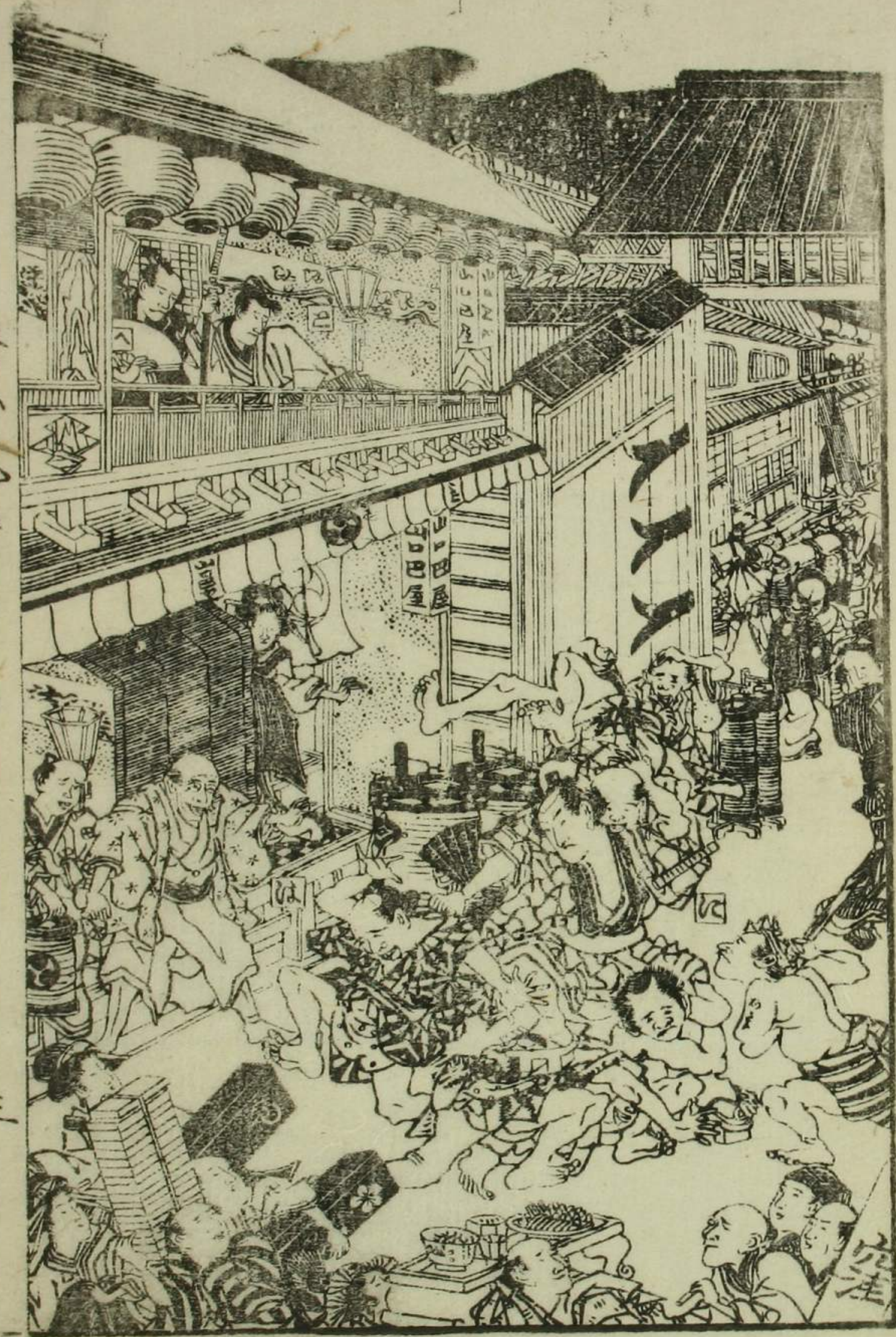
江戸本町延壽丹藥店もぞ式亭三馬編

東西式亭三馬歌川世圖高人多  
 江戸本町延壽丹藥店もぞ式亭三馬編  
 三馬の世圖高人多  
 江戸本町延壽丹藥店もぞ式亭三馬編



うやさうやぶらこられたのそらづま





武藏國むさしのくに 總すまヶ窪くぼ花街はなまち宿しゆく昔むかし鼓つづみ系けい榮えい之の圖ず



板元

田所町  
はいるや

右意が窪の圖人物の姓名を知る合印

い 大友車走 入間大領 猛虎

ろ 赤坂庄内 正重

は 湯島宗 養子 主水

は 豊島家臣 後輪津左門 宗清

は 在原判官子息 司馬 太郎 安定

は 豊島家老 廣岡團次 右衛門 高武



丹波庄内 假小作 芝のあき 養子  
豊島家臣 後輪津左門 宗清  
在原判官子息 司馬 太郎 安定  
豊島家老 廣岡團次 右衛門 高武



丹波庄内 假小作 芝のあき 養子  
豊島家臣 後輪津左門 宗清  
在原判官子息 司馬 太郎 安定  
豊島家老 廣岡團次 右衛門 高武



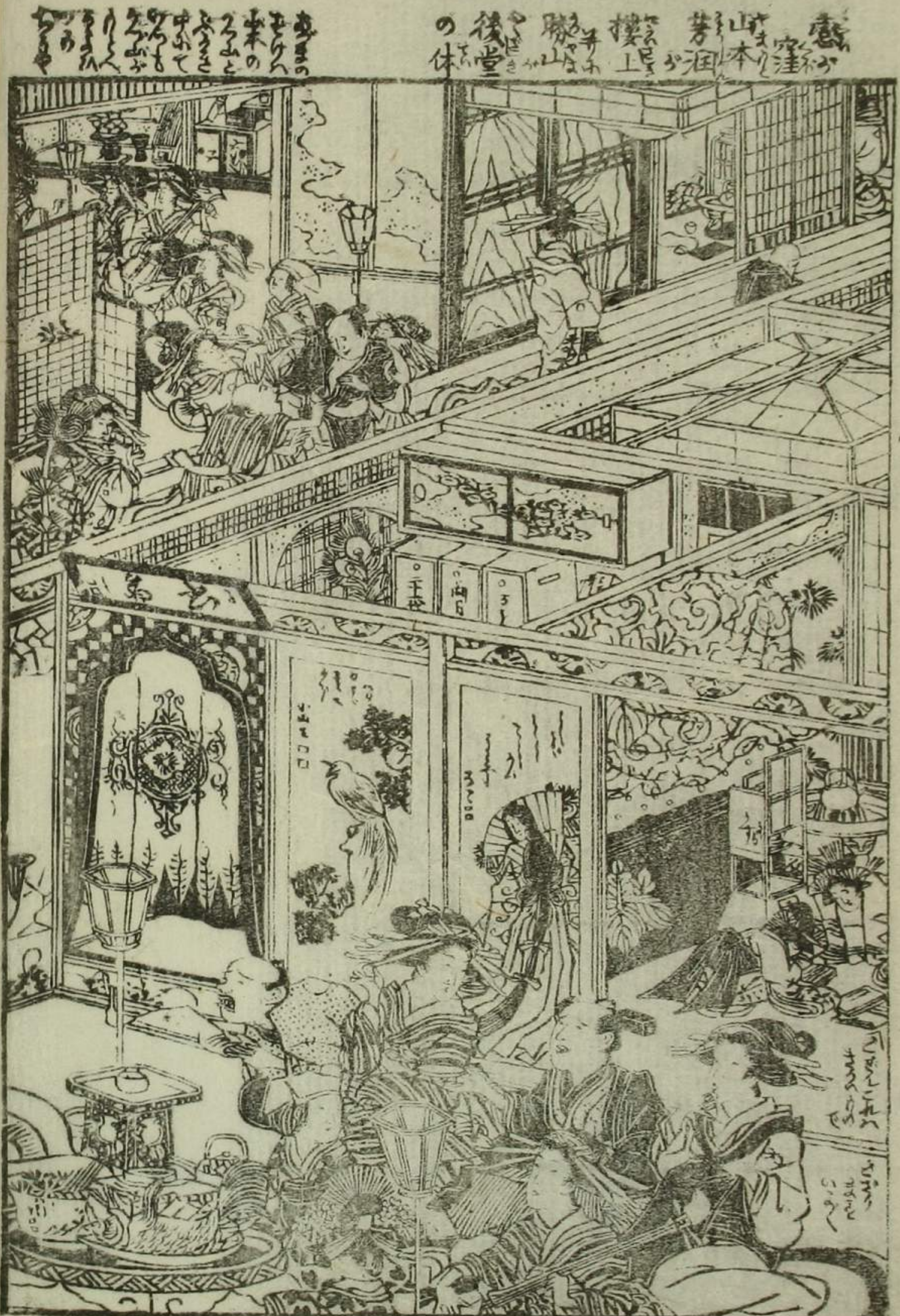
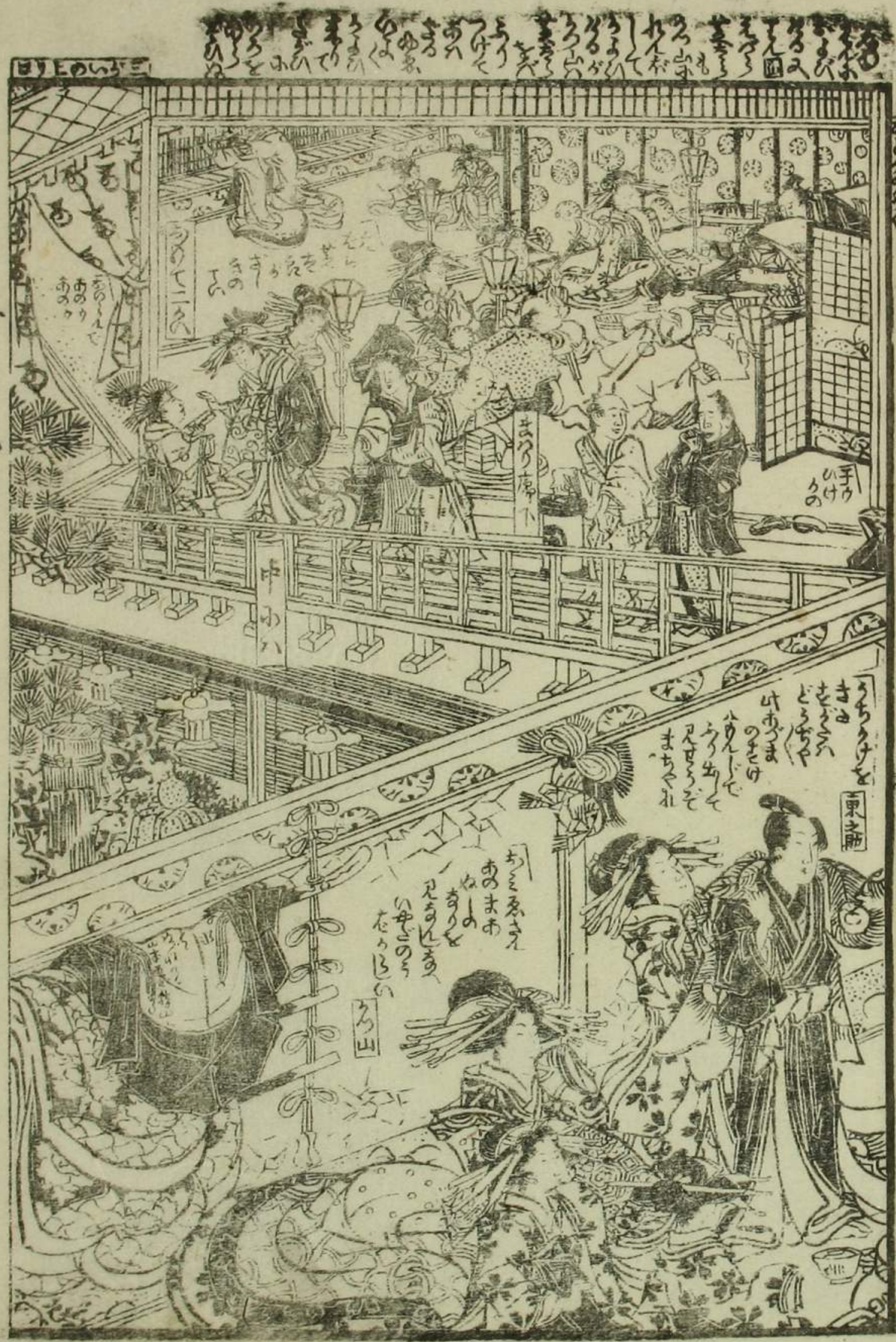
あつらん  
豊島家臣 後輪津左門 宗清  
在原判官子息 司馬 太郎 安定  
豊島家老 廣岡團次 右衛門 高武



あつらん  
豊島家臣 後輪津左門 宗清  
在原判官子息 司馬 太郎 安定  
豊島家老 廣岡團次 右衛門 高武



あつらん  
豊島家臣 後輪津左門 宗清  
在原判官子息 司馬 太郎 安定  
豊島家老 廣岡團次 右衛門 高武



二巻の文木記よきこ

入平八十二代後醍醐天皇の院の御宇文治  
建久のころよりとよむきの國の領人  
武蔵の助長久の御代に武蔵の領人  
武蔵の助長久の御代に武蔵の領人  
武蔵の助長久の御代に武蔵の領人



三田八まんまの御代  
おあひの御代に御代  
おあひの御代に御代  
おあひの御代に御代  
おあひの御代に御代

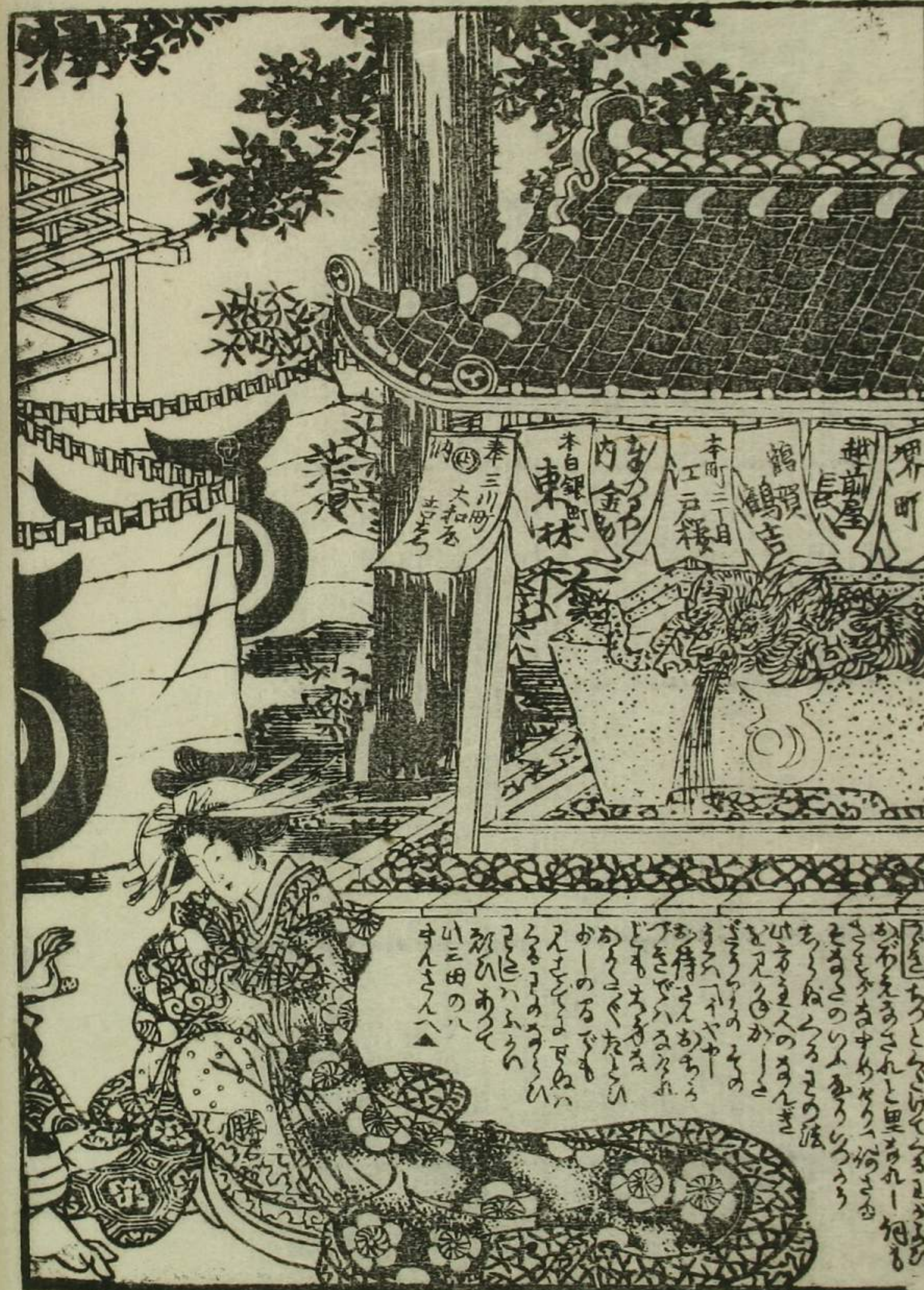
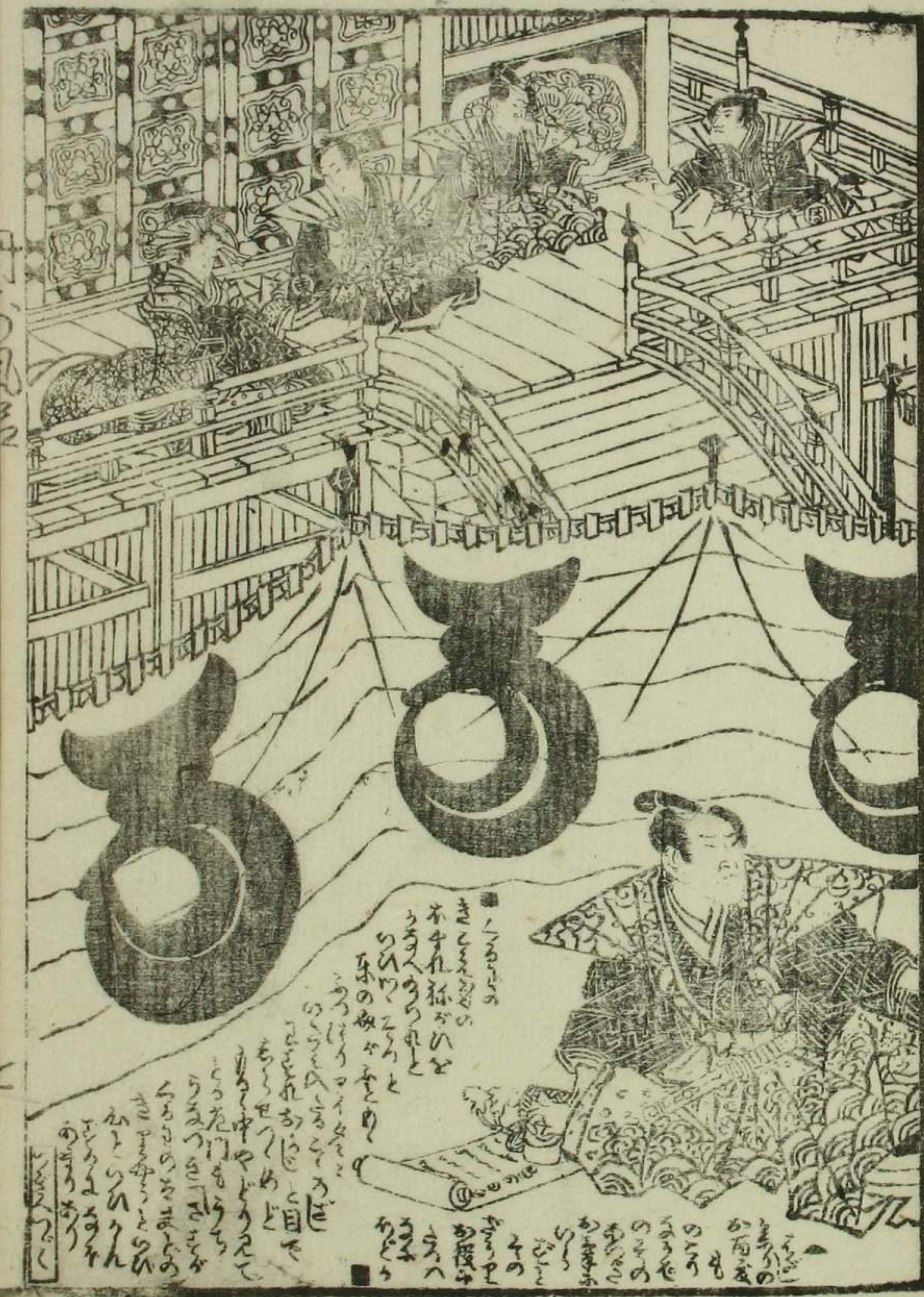
御代に御代に御代  
御代に御代に御代  
御代に御代に御代  
御代に御代に御代

二之巻

山本のおつとみ  
おつとみの御代  
おつとみの御代  
おつとみの御代  
おつとみの御代



おつとみの御代  
おつとみの御代  
おつとみの御代  
おつとみの御代  
おつとみの御代



大分県

二







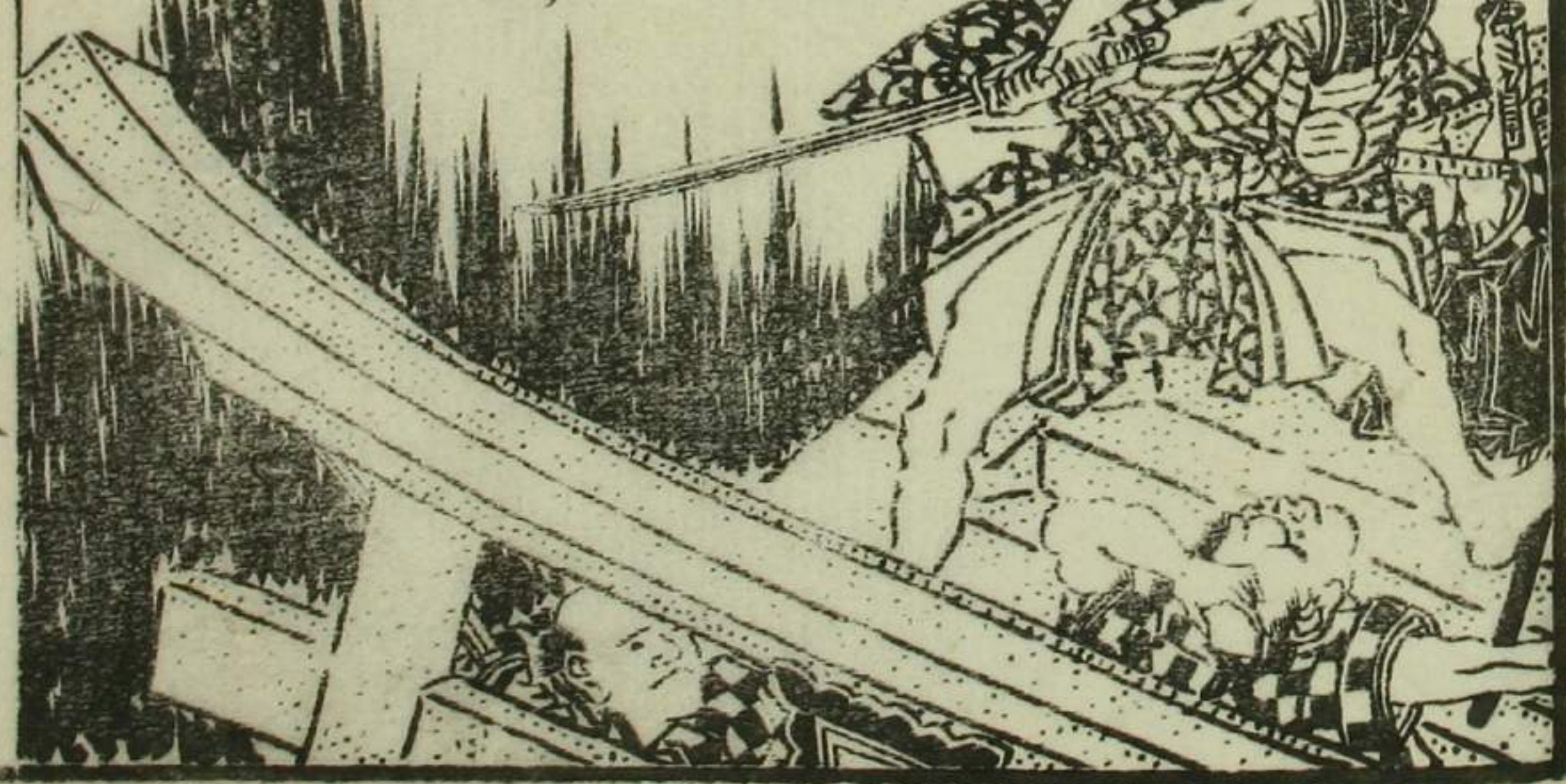








了てをふ  
 っつと  
 りと  
 あい  
 小ひふ  
 うんかん  
 ひとふ  
 三平  
 た門がねと  
 りるもま  
 ちのりけん  
 をうしとまな  
 八つふりさめさけの  
 ありがこ組おふら  
 あんし忠厚のたふ  
 た門が名のをま  
 わしよのとて  
 可うれゆく  
 ○さても陽のきか  
 ふんどうの上れんをんは  
 能の判わしとじひひ  
 ぶとくしとやうくと件  
 今田ちくぶのま  
 今田ちくぶのま  
 上候とて  
 入ありりか  
 た門が  
 去のさう地の進  
 そこのやう  
 わさめふと



了てをふ  
 っつと  
 りと  
 あい  
 小ひふ  
 うんかん  
 ひとふ  
 三平  
 た門がねと  
 りるもま  
 ちのりけん  
 をうしとまな  
 八つふりさめさけの  
 ありがこ組おふら  
 あんし忠厚のたふ  
 た門が名のをま  
 わしよのとて  
 可うれゆく  
 ○さても陽のきか  
 ふんどうの上れんをんは  
 能の判わしとじひひ  
 ぶとくしとやうくと件  
 今田ちくぶのま  
 今田ちくぶのま  
 上候とて  
 入ありりか  
 た門が  
 去のさう地の進  
 そこのやう  
 わさめふと









四之巻



まてん大蔵左衛門の侍もまた  
 其のまの玉川の上しかりと  
 夫のむすこふつとまのむす  
 のむすこふつとまのむす  
 武士もまたまのむすこふつ  
 むすこふつとまのむすこふつ  
 夫のむすこふつとまのむすこ  
 切のむすこふつとまのむすこ

因不とうせん  
 ひまのむすこふつとまのむすこ  
 夫のむすこふつとまのむすこ  
 とまのむすこふつとまのむすこ  
 むすこふつとまのむすこふつ  
 夫のむすこふつとまのむすこ  
 ひまのむすこふつとまのむすこ



武士もまたまのむすこふつ  
 むすこふつとまのむすこふつ  
 夫のむすこふつとまのむすこ  
 ひまのむすこふつとまのむすこ

武士もまたまのむすこふつ  
 むすこふつとまのむすこふつ  
 夫のむすこふつとまのむすこ  
 ひまのむすこふつとまのむすこ



武士もまたまのむすこふつ  
 むすこふつとまのむすこふつ  
 夫のむすこふつとまのむすこ  
 ひまのむすこふつとまのむすこ

武士もまたまのむすこふつ  
 むすこふつとまのむすこふつ  
 夫のむすこふつとまのむすこ  
 ひまのむすこふつとまのむすこ



武士もまたまのむすこふつ  
 むすこふつとまのむすこふつ  
 夫のむすこふつとまのむすこ  
 ひまのむすこふつとまのむすこ

武士もまたまのむすこふつ  
 むすこふつとまのむすこふつ  
 夫のむすこふつとまのむすこ  
 ひまのむすこふつとまのむすこ





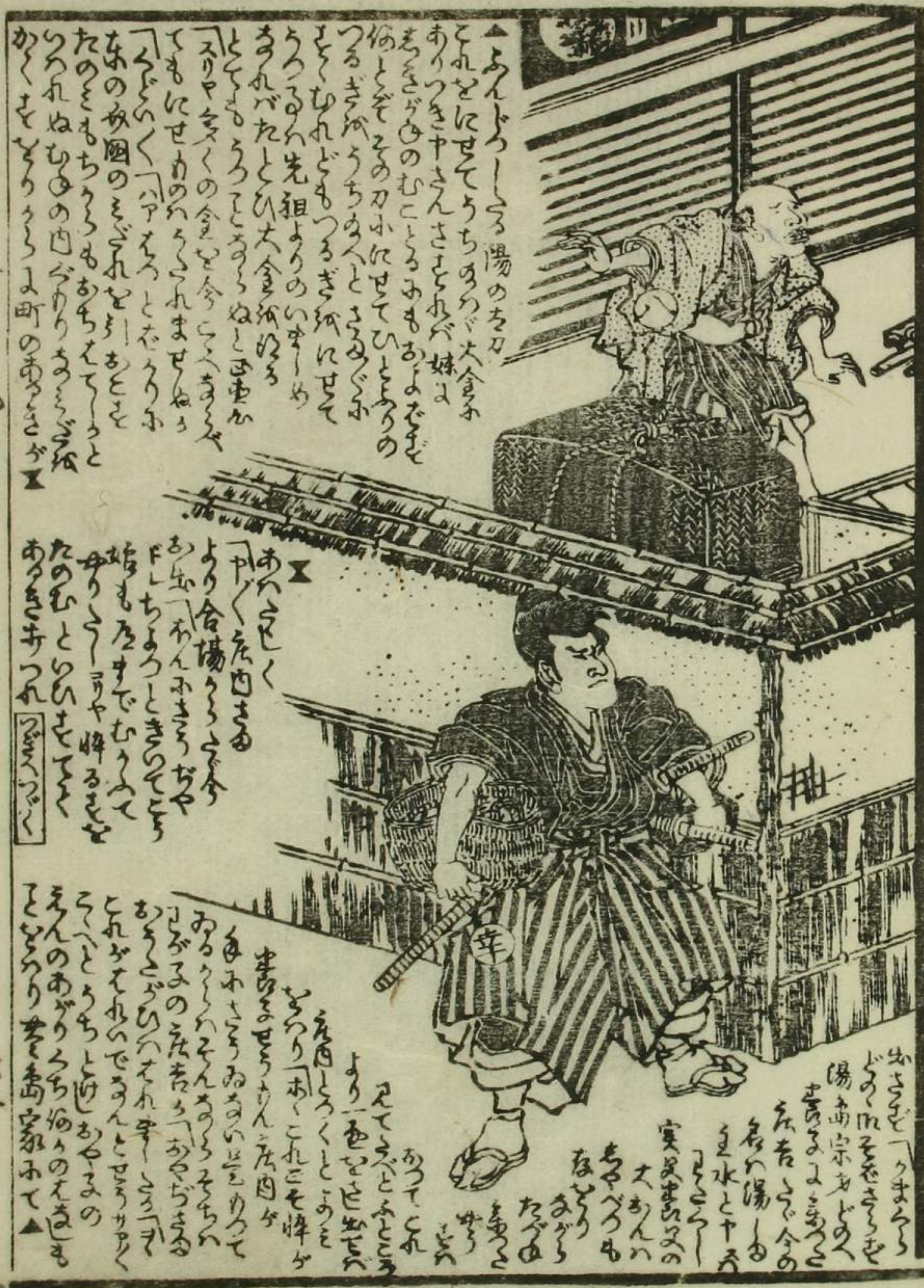








ついでに「あつとさん」といふに同士の  
 志のあひづけを内からいふゆゑ  
 いふのむこえとむいといふ内か  
 目うれはるゆとあひといふ内か  
 志あふ小のゆとあひといふ内か  
 まふちよ小のゆとあひといふ内か  
 たふもゆとあひといふ内か  
 けり家とあひといふ内か  
 けりの上とあひといふ内か  
 されといふとあひといふ内か  
 まりといふとあひといふ内か  
 その内とあひといふ内か



▲あつとさんといふ湯のまわ  
 これをいせてうちまわつた金  
 ありつとさんといふとあひといふ  
 志あふ小のゆとあひといふ内か  
 まふちよ小のゆとあひといふ内か  
 たふもゆとあひといふ内か  
 けり家とあひといふ内か  
 けりの上とあひといふ内か  
 されといふとあひといふ内か  
 まりといふとあひといふ内か  
 その内とあひといふ内か

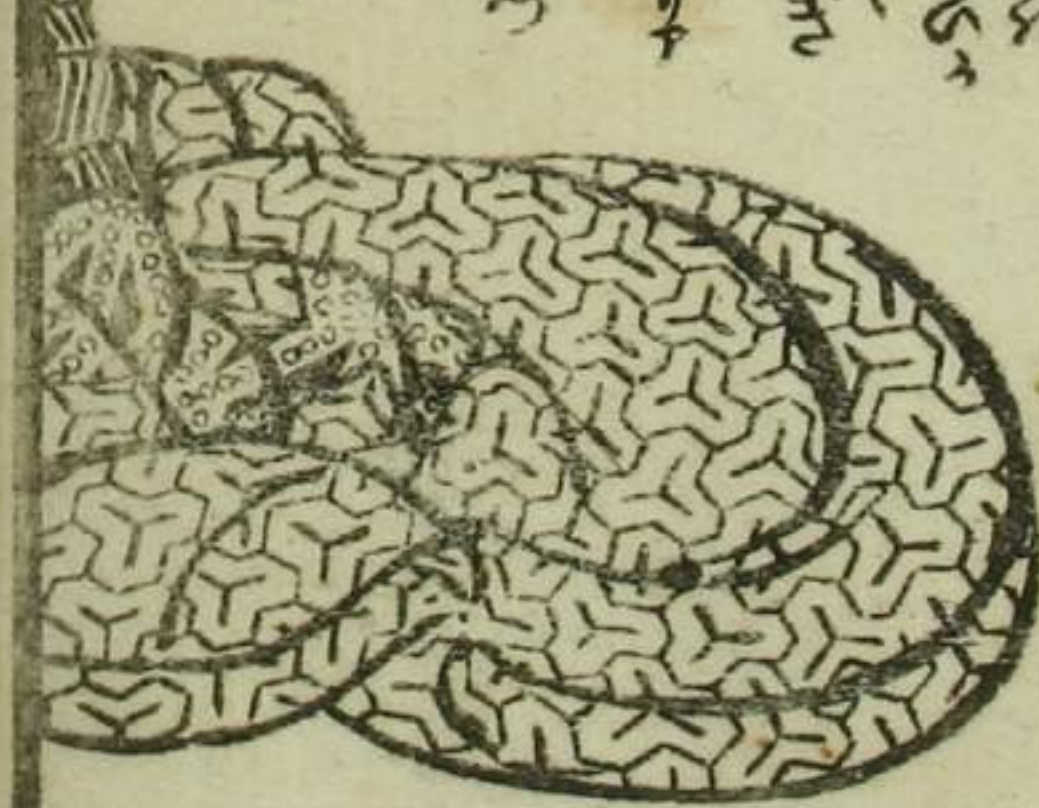






つぎ...  
あうげんもせぬ...  
のうち...  
...  
あまのなま...  
...  
あまのなま...  
...  
あまのなま...  
...

あつとりの...  
ごさ...  
さる...  
...  
...  
...  
...  
...  
...



**三馬堂** 京都田中宗悦製  
**仙方延壽丹** 妙り妙り  
 代金 壹分  
 法虚百損...  
 ...  
 ...  
**江戸の水** ...  
 ...  
 ...  
**本家** 式亭三馬製  
 本町二丁目南側



...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...



あんなに  
けな内が  
ちうと人  
あつたね  
るんあつて  
戸だまをすひ  
けな内が  
ちうと人  
あつたね  
るんあつて  
戸だまをすひ  
けな内が  
ちうと人  
あつたね  
るんあつて  
戸だまをすひ

あんなに  
けな内が  
ちうと人  
あつたね  
るんあつて  
戸だまをすひ  
けな内が  
ちうと人  
あつたね  
るんあつて  
戸だまをすひ

あんなに  
けな内が  
ちうと人  
あつたね  
るんあつて  
戸だまをすひ  
けな内が  
ちうと人  
あつたね  
るんあつて  
戸だまをすひ



あんなに  
けな内が  
ちうと人  
あつたね  
るんあつて  
戸だまをすひ  
けな内が  
ちうと人  
あつたね  
るんあつて  
戸だまをすひ

あんなに  
けな内が  
ちうと人  
あつたね  
るんあつて  
戸だまをすひ  
けな内が  
ちうと人  
あつたね  
るんあつて  
戸だまをすひ

あんなに  
けな内が  
ちうと人  
あつたね  
るんあつて  
戸だまをすひ  
けな内が  
ちうと人  
あつたね  
るんあつて  
戸だまをすひ

六之卷



ふさふさの髪に  
うさぎの幸ちやが  
あまのり  
アノキレ  
あまのり  
ふさふさの髪に  
うさぎの幸ちやが  
あまのり  
アノキレ  
あまのり

丹次見



ふさふさの髪に  
うさぎの幸ちやが  
あまのり  
アノキレ  
あまのり  
ふさふさの髪に  
うさぎの幸ちやが  
あまのり  
アノキレ  
あまのり



龍樹散  
代主安  
三馬收筆  
ふさふさの髪に  
うさぎの幸ちやが  
あまのり  
アノキレ  
あまのり

あまのり  
うさぎの幸ちやが  
ふさふさの髪に  
うさぎの幸ちやが  
あまのり  
アノキレ  
あまのり

丹次見

丹次見













消息案内

黒沢翁満先生著

上編

全一冊

世の消息の著多しと云ふも渾要文との稱へく俗用を毎々を台  
とすむに雅文の用をかきりぬる。此書中古の雅言と五十字音の  
假名とをて頭字となり。いろはあひひ雅言と探捷徑を  
たふ奉存候の雅言と思ひあつと云悲惶謹言をあらへり。又  
類い或る年既暑寒の字帖の俗文の下小雅言をいあへり。書なり  
又ハ調皮の名の雅俗といふて。管く。わ。必令。初学の便業へ

碁經奕範

服部因叔著

全二冊

此碁經ハ局こぶふらち早と云ふ。僅ハ一偶をあけて。後ハ石を  
それハ局中盡く變とて。又ハ意とりて。法字ハ工文をいふらさむ

碁經奕筌

服部因碩著

全二冊

是ハ局中の碁ハ打方の評論とあひ五字をよみて。とらむ。そのハ初学の  
者此術ハ未とひあり。えと。碁ハ字者として。此筌と忘と。うの。ころ。へ

煎茶早指南

尾磔舎主人作  
月樵老人畫

全一冊

此書ハ尾碔樵天満宮尾磔舎主人述傳中。て。月樵老  
画師の筆をとり。て。賣茶早指の肖像を写。り。乃。この  
箱の裏茶の具ハあひひ。和漢茶の。の。意。を出  
茶具の。並。茶の。法。を。傳。り。同。好。の。人。は。便。り。也

十躰千字文

兩面一枚摺

觀音菩薩垂施無畏之圖 唐紙一牧摺一幅

此圖、明人李龍眠の描たる真蹟を模寫し、觀音の功德三千三身の應現、彼觀音と念むるの力を乞ふ火坑いらんとすも、若し忽ち變じて氷水となり、大水の漂ふ所も、浪濤と成、或は惡鬼毒蛇小遇すも、敢て害を更けず、雲雷の宜しき制し、大雨を降せり、時小意なく、消ぬるといふべし。又、此の經文の意と、此の圖の周圍の梵字、千手の陀羅尼と書きたるものなり。

草木性譜

舎人清原重巨撰 男 重光校

全三冊

此書、山莊田圃の草木の中、奇異なるを撰り、海名方々を委く、記し、花葉葉根のいろくまると、やち、雲種別種と考へ、諸名家写生の画は、着色を加へ、本冊の送酒に備へし、とよお、抄巻家の羽翼となす也。

天文中星風雨考 兩面一牧摺

第一中星の藩と出、次、北斗七星の明暗、中星の安危を考へ、万物の吉凶をさし、曆日ふりて、其年の若否と、雲氣と、五穀の豊凶を考へ、朔日の油氣と、風雨旱魃飢饉の天災と、燈花開謝は、人の倫の憂喜と、又、五穀の法時を、一帯の中、小おのそ、若年の奉物と、む、重寶と、ま、き、とのたり。

日用晴雨管窺

全一冊

此晴雨考、八つの目く、の晴雨を操ぬ、ふ、天の象と、八卦の道理を和、或は霧霞霜雪と、窺て、晴雨と、法雷、虹蜺、日月の暈地震ホの奉、お、五穀の豊凶を論、る、ゆ、ふ、さ、り。

人相早合点 両面一收摺

凡人相の筋とる不証ひごき事古く下り貴賤貧福寿夭の事  
自然備もる事と又痣の出所色相中より吉凶聖賢の差別と  
もく此系と考へん事うち其理の便覧なる事自體て知り  
之

點竄指南録 坂部先生著

全十五冊

此算法は日用の相場割利之算未積田畑取箇等の諸算法より記す  
天元演段諸約簡管招差趕越角術山理弧背木の深術ふりる事  
法小くしる事若用ふ臨く事除の業事とるは法小仍て其術系を  
探るに速小本術をひる事初学の爲小古今の算題と集め類下  
本術を施し別小點竄法小仍て其術系と詳中其用法としめし

易道早合点 両面一收摺

此早合点ハ其日の晴雨天災商賣の利潤及六損失卦室の成不成  
病人の吉凶得物の有無失物方位掃負の若悪毎月毎日の標  
格を易の卦小準へく吉凶をくは是織小商人早合点の書

繪本庭訓往来 北齋為一老人画

全三冊

此書ハ玄惠法印の傳あるありけり傳あるを今あらしめし老人の名  
事として本文小所在人物も款草木其外品物もするに挿き  
出せるものなる事ハ本文を解する小易く寔小智の  
書とすし州本も款の名と形とを考へし三百箇の詩  
と學ひて多く事本も款の名の事と考へしは優きと云へ

繪本女今川

北齋翁画

彩色摺

全一冊

ともしくおまごのものをまびてうごくとよふくまごのめらこ  
しつとこれいして何ともわき中へあつぬこみくまき  
まごをいといとれいりされい此書を今川家の  
制初よなういひく女のころうへまきりさつし縁さふ  
小あの名画を今川錦摺とて詞士の心をうけしせるものこ

手紙早引集 両面一牧摺

常々通用する手紙の文をとりはかみして多智の書き子の  
軍手本とすき早引集にして文の簡潔を述べしる  
の間ふ合ふと節用の早引集もあつてきよきよのめ

箏曲大意抄

全六冊

右の本ハ箏曲の総表裏中免許三曲ありて二終の曲を考へて  
老々一筆曲秘事免許の門系後代におわけて忘る失せしるん  
る為同好のまじい出を合はせ共のくみおとるまきり

物品識名 水谷先生著

全二冊

同 拾遺 全二冊

此書ハ水土金石草木禽獸虫魚等ふりて其和名を團字を  
りつて分類し一冊にや漢名をきりて一冊に本名家の用のみ  
まじりて其異称別名を附載してついで文藻の一助とれ  
りつとも漢名虫魚の書目をもあつて附記せり

永平道元禪師行狀之圖

画箋紙 二幅  
一牧摺

此禪師越前永平寺の開山にして我内大臣の浄子は母九條  
関白基房公の女なり正治二年二月降誕ありて母は時唐人  
百條の侍を諒より九女にして俱舎満を関しそれより勤学  
中凡く深く出塵の志をおこし由りては利養ありては入  
宗一見し一変実ある時村浜におわて猛虎は値ひ其ひ  
率女八女ふして神童小わひ南海を渡り其ひは風波  
の起るも不怙然として恙あるも由來報前の吉祥山の  
故事一峯涼帝の朝ふかしくは衣を脱ぎて遷化ありて  
中して一偈を書き畢り其ひは遷化ありて其ひも志  
くわげ馬ふ馬なる大幅の掛物なり

後撰和歌集新抄

別記一冊

全十五冊

け書々真淵契仲本居其外諸大人の言説を悉く参考し  
先人未發の自考を師へ古実規式を以て先河の記  
仍てふを以のとの人なりと悉くときさして本居大平  
翁石系正明先生の説英考閱を加てわははるものし  
延壽養生談 全一冊

け書ハ養生の極秘を以てふかしく人々を以てお  
これハ女子とくももろもろやましく無病長命子歎の勸教百條  
を以つめこれハ人々平生熟讀せしむる子孫長久の基なり  
実ハ百年の壽をとらるるひなり

養生要論

鈴木離屋先生著

全一冊

先生七十二歳の頃自ら養生の道を試みたる世間長壽壯健の人自然と養生の乃ふるありと澄摺してその所以あげ又補薬なりび小茶飲るどとりて長生をりて其のむひ却く癖りかりしこと海ほど

日用藥品考

溶々齋先生著

全一冊

此書ハ医家日用の藥品水土金石草木其他物及び山野に自採する品より家園に培栽する品までの真偽上下と毎に秘傳の有無を訂し茶舖に於て通用するもの擇りて名稱印辨を委く記載を意し医家日用のなる以多識の爲め貯べき

目ロク 六

牧民忠告解

尾張樋口好古先生著

全一冊

此書ハ元の代西臺中丞張希孟とて入朝録と名する官人のよふ能く高唐の鄒從吉といふ人崇安といふ所の令となりては書を以ては道をおとるひは色大分治るといふありて牧民の爲め必可讀ととありたり

早見萬宝大通考

尾張城南

籌山堂撰

全一冊

此書ハ相場を以て割ふを以掛算の法にてこれありてたよふ算合何程亦も石敷代金未とてふおむ何やと習ふお場を並存の法を以て是れかきむおむ何程とてふおむ何やと習ふお場を並存の法を以て是れ

書肆

名古屋本町通七丁目

永樂屋東四郎

江戸日本橋通本銀町

同 出 店

